

まもる一む福岡の「交流・活動の支援」をお伝えする

# 環境活動 NEWS 9号

まもる一む福岡は、NPOや市民団体の環境活動を応援するため、交流やネットワークの場づくり、情報発信などを行っています。

環境活動 NEWS 9号では、2023年度の前半に実施したイベント等の様子をお届けします。

生きもの  
私たちのくらし  
トーク・カフェ

第1回 もっと気軽に！子どもと楽しむ自然体験

生きもの  
私たちのくらし  
トーク・カフェ

第2回 まちなかの木々を愛でる

生物多様性  
特別講座

干潟の生きものイラストでマイキーホルダーづくり

生物多様性  
特別講座

九州の森と色々なハチ

生きもの  
私たちのくらし  
トーク・カフェ

第3回「自宅で湿地帯ビオトープ」とは何か？

生きもの私たちのくらしトーク・カフェ第1回

2023年9月24日(日)

## 「もっと気軽に！子どもと楽しむ自然体験」

講師：大野敦子さん（こうのす山であそぼう会） & 伊東しおりさん（博多昆虫同好会）



身近な生物多様性を考える「生きもの私たちのくらしトーク・カフェ」。小さなお子さんたちと身近な自然に触れ合う活動をしている大野敦子さん、伊東しおりさんから、自然体験のいろんな工夫や注意点などのお話を聞きしました。

### 子どものペースで森あそび

大野さん（写真左）からは、2～5歳の子どもたちが木の実を集めたり、秘密基地を作ったり、落ち葉でお風呂を作ったり、森で思うままに遊ぶ「こうのす山であそぼう会」のお話。子どもの自主性を尊重し、見守ることを大事にしているそう。「いいな」と思った場所には繰り返し行くことをお勧めされていました。

### 身近な生きものを楽しむコツ

博多昆虫同好会の伊東さん（写真右）からは、公園



なにか発見した様子…



シジミチョウ見つけた！



鴻巣山の森で自由に活動「こうのす山であそぼう会」

## 「まちなかの木々を愛でる」

講師：三浦 豊さん（森の案内人）

全国で活躍する森の案内人・三浦豊さんをゲストに、まちなかの街路樹や公園樹を愛でる楽しさを一緒に体験しました。この日はほとんど野外での観察会。最後の交流も盛り上がりました。



## たっぷり「まちなかの樹木観察ツアー」！

この日は、まもる一むの部屋を飛び出し屋外へ！正面のケヤキの観察からスタートしました。ケヤキの種子は（右下写真）、葉っぱ2,3枚と一緒に小枝についたまま落ちていきます。なので空中に放るとクルクルと飛んでいきます。母親の木から少しでも離れられるようになっています。

すぐそばの植え込みに目を向けると、植栽された花の間からクロガネモチやクスノキが芽生えています。どちらも鳥が実を食べ、フンをしたことで運ばれてきたようです。風を利用する木、鳥を利用する木。子孫を残すいろんな戦略がありました。

一列に並んだナンキンハゼに目を向けると、紅葉を始めたものもあれば、まだ全て緑のものも…。同じ環境の同じ樹種でも、木々は一本一本、個性豊かで違いがあるというお話もありました。

参加者は三浦さん手書きの樹名シートに熱心にメモを書き込み、落ちた実や葉などを集める方もおられました。観察ツアーは、ゆっくり歩きながら地行浜の松

林まで行きました。海風に耐えるクロマツの様子を見たり、タブノキの“うろ”から芽吹いたヤマザクラにも出会うことができました。まもる一む周辺は埋め立て地ですが、約70分間のツアーで13種類も樹木を観察することができました。

## 盛り上がった交流タイム

まもる一むの部屋に戻って、交流タイムでは4,5人のグループに分かれて自己紹介や感想を話しましたが、どのグループも熱中して盛り上がりました。アンケートでは「樹木に人の生き方を教えてもらったようです」「植物への接し方に確実に影響する日となりました」「観察後のおしゃべりでステキなお話を聴けました」などの感想をいただきました。

三浦さんの木々への愛を感じた半日。皆さんの木々を見る目も豊かになったように感じました。



エノキ（榎）は「木偏に夏と書きます。木陰が気持ちいいんです」



ケヤキの種と葉（上）／観察後の交流（下）

生物多様性特別講座

2023年11月3日 (金・祝)

# 「干潟の生きもののイラストでマイキーホルダーづくり」

講師：松本 悟さん (ウエットランドフォーラム)

## 干潟の生きものを描いてみよう！

まずは講師の松本さんから、ウエットランドフォーラムが活動する和白干潟のご紹介。干潟は多様な生きものの住処で貴重な場所とのお話がありました。

続いて、松本さんご自身による干潟の生きもののイラストを見ながら、どんなことに気付けると良いイラストになるか、コツを教えてくださいました。

後半は、皆さんそれぞれで生きもののイラストを描いてキーホルダーにしていきました。和白干潟で調査や保全を行う子どもたち「ガタレンジャー」がキーホルダーの作業に協力してくれました。参加者からは「松本さんのイラストかわいい！！」「干潟に遊びに行きたくなりました」との声も。皆さんの手元に素敵なキーホルダーが出来上がりました。



講師の松本悟さん



みんなで生きもののイラストを描いています



かわいくできました！

生物多様性特別講座

2023年11月18日 (土)

# 「九州の森と色々なハチ」

講師：上森 教慈さん (九州大学大学院 環境農学専攻)

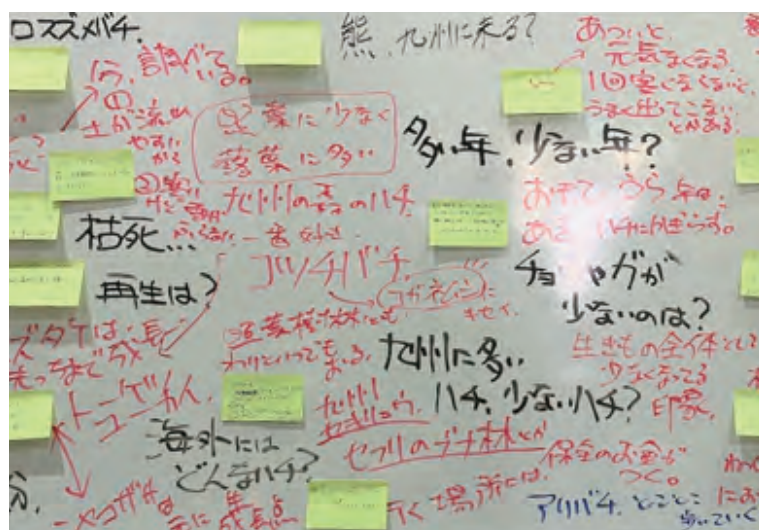
## ハチのお話、森のお話

九州大学で森とハチの研究に取り組む上森さんがゲスト。前半はスライドを使ったお話でまずは「ハチについて」。「知っているハチはいますか？」と問いかけながら、身近なハチの仲間の特徴や寄生バチの生態のお話がありました。続いて「九州の森について」、二つの森の写真を見比べて「どちらの森がよい森だと感じますか？」と尋ねながら、九州の森の現状をお話し

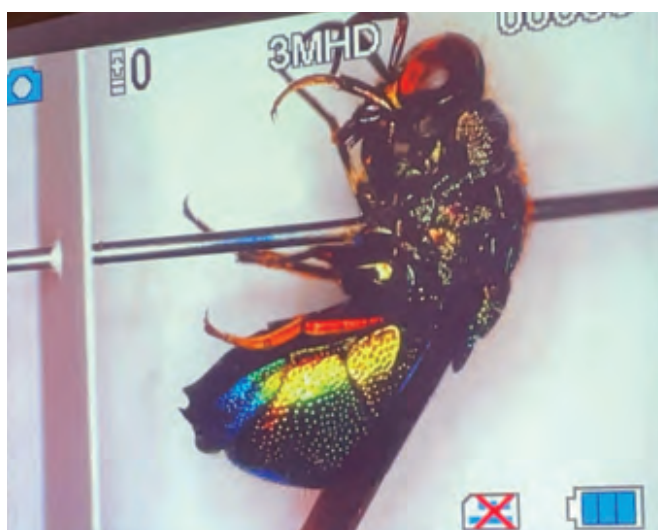
され、なかでもシカが下草を食べつくしたことで、木々が倒れてしまった様子は考えさせられるものでした。

## たくさんのご質問と「アフタートーク」

デジタル顕微鏡による観察タイムの後は、質問タイム。たくさんいただき、時間が足りないほどでした。終了後も10名近くの参加者が残り、上森さんへの質問やおしゃべりを楽しんでいました。



質問の付せんと回答の板書



ハチの標本をデジタル顕微鏡で観察



講師の上森教慈さん

# 「『自宅で湿地帯ビオトープ』とは何か？」

講師：中島 淳さん（福岡県保健環境研究所 専門研究員）



著書「自宅で湿地帯ビオトープ！」が大好評の水生生物の専門家・中島淳さんをお招きしました。湿地帯ビオトープづくりの基礎から、出会いやすい水生昆虫の観察、ビオトープづくりの質問タイムなどをたっぷり楽しみました。

## 生物多様性、湿地帯、エコトーンを知ろう！

まずは中島さんのこれまで研究や新種ナギサミズカメムシの紹介からスタート。続いて、ビオトープづくりで大切な三つのポイントとして

生物多様性	生態系・種・遺伝子の多様性からなり、社会の基盤として大切！
湿地帯	氾濫原湿地など「二次的自然環境」が失われつつある。
エコトーン	陸域と水域が接するエコトーンが生物多様性の豊かさにつながる

のお話がありました。

観察タイムでは、ビオトープを作ると自然にやっつきやすい種をご紹介します。ケシカタビロアメンボやチビゲンゴロウの標本をみんなで観察しました。(写真右上)

## 「自宅でもやってみたくなりました」

交流タイムでは、他の環境学習施設やNPOからの参加者同士でイベント連携の話も生まれました(写真右)。質問タイムでは「ボウフラがわいたら?」「ボウフラは種間競争に弱いのでヤゴなどの捕食者でコン

トロールができる」といったやりとりも。自宅で湿地帯ビオトープとは「失われつつある生物多様性を自宅で気軽に再生してみようという遊び」とのこと。「自分でもやってみたい」との声も上がりました。



講師の中島淳さん



交流タイム

著書「自宅で湿地帯ビオトープ!」→



福岡市保健環境学習室「まもる一む福岡」では、NPOや市民団体などによる環境活動を応援するための交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取り組みを行なっています。環境活動に関心のある皆さん、活動に取り組むNPO等の皆さん、ぜひお気軽にご相談・ご参加ください。



### 環境活動交流支援の取り組み

ふくおか環境連絡交流会  
ふくおか環境活動発表会

生物多様性特別講座  
生きものと私たちのくらしトーク・カフェ

情報の収集・発信

福岡市保健環境学習室



住所 〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34  
電話 092-831-0669  
開館時間 10:00 ~ 17:00  
休館日 月曜・火曜(休日の場合はその直後の平日)  
年末年始(12/28~1/4)